

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことをよく理解したうえで訪問にうかがうことができます。	担任の先生からの見立てをいただいたり、保護者様のニーズを確認しながら、必要と思われる授業に訪問をさせていただいています。	家庭や学校、放課後等デイサービス及び児童発達支援との情報共有を行い支援の連携を図ります。
2	支援学級や幼稚園等では、こどもの特性に応じた支援ができています。	先生と一緒にこどもの見立てを行い、直接支援をさせていただくことで、行動の背景にあるものを視点を変えて理解していただいています。	訪問後の振り返り時間が短時間なので、カンファレンス等の時間を設定して共通理解を図り、関係機関の支援に繋がっていきます。
3	訪問後は保護者様との連絡ツールを使って、その日の中に学校等での様子をお伝えしています。	訪問時の様子を速くお伝えすることで、保護者様との共有でき、信頼関係の構築に繋がっています。	今後も訪問後は、迅速に学校等での様子をお伝えし、ご家庭とは異なるこどもたちの姿を知っていただくことで家庭支援に繋がっていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が多いことで、学校の負担になっていることがあります。	訪問にくることで児童が緊張し、落ち着かなくなる場合があることが課題です。	回数を重ねて慣れていってもらうことで、日常の授業と変わらない状況を見せてもらえるようにしていきます。
2	学校との共有に十分な時間をとることができていません。	お互いの可能な時間があわないことで、十分な話し合いの場を持つことができていません。	不定期でも、状況に応じて話し合いができる場をもつように検討します。
3	保育所等訪問支援についての理解が不十分。	訪問先との事前説明が不十分なことから、趣旨理解が浸透していないことが見受けられました。	毎年訪問開始前には、保護者様との面談と訪問先への趣旨説明を行い、保育所等訪問支援への理解をいただけるようにします。